



文部科学省科学技術人材育成費補助事業  
ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）  
清流の国 輝くギフジョ 支援プロジェクト

2018

# 女性研究者 ロールモデル集

輝く先輩からのメッセージ

A COLLECTION OF RESEARCHER  
ROLE MODELS

お問い合わせ

岐阜大学 男女共同参画推進室

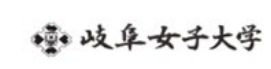
Tel 058-293-3397

Fax 058-293-3396

E-mail [sankaku@gifu-u.ac.jp](mailto:sankaku@gifu-u.ac.jp)

清流の国 輝くギフジョ 支援プロジェクト

webサイト <https://diversity.gifu-u.ac.jp>





## はじめに



岐阜大学長 森脇 久隆

岐阜大学は平成27年(2015年)度文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(連携型)」の公募に、岐阜薬科大学、岐阜女子大学、アビ株式会社と共に「地域循環型女性研究者育成・支援プログラム」というテーマで応募し、採択されました。事業期間は平成32年度まで、到達目標は女性研究者の上位職採用を飛躍的に拡大することです。

上位職とは例えば大学の場合、教授、准教授が相当します。前記の目標に到達する方策としてはまず内部からの昇進や外部からの登用が考えられるでしょう。しかし大学改革/大学活性化や企業のパワーアップという長期的な切り口から本事業を捉えると、まず助教など裾野に相当する女性研究者の割合を高める必要があることは言うまでもありません。

さて若年者にとって進学、就職、結婚が最初の三大関門という見方があり、女性には出産というライフイベントが加わるかも知れません。男女を問わずこれらの一つ一つクリアしながら前進するに際し、何らかの見本や手本(ロールモデル)があれば大いに参考にしたいものです。本冊子はまさに女性研究職を目指す方々向けに編まれたロールモデル集で、既に上位職に就かれた研究者、管理職から助教まで、多彩な経験が掲載されています。これから進路を考える学生の皆さん、既に就職し今後のキャリアパスを発展させたい社会人の皆さん、既に管理職にあり事業体の発展や部下の人材育成を図ろうという皆さんに、男女を問わず一読されるようお勧めします。

また今回の冊子に掲載された研究者の所属は岐阜大学、岐阜薬科大学、岐阜女子大学の3大学とアビ株式会社の1企業に広がり、研究分野も理系から文系まで多様、職階も教授、准教授、講師、助教とバラエティに富み、様々な考え方、経験をご覧いただけます。学生、社会人を問わずキャリアパスを構築する上で大変参考になるうかと思えます。

なお最後に一つだけ申し上げておきたいことがあります。特に研究職として向上していくためには、常に自身の到達目標を見据え、同時に自身の現状と環境を評価の上、必要があれば目標や戦略をリバイスできる柔軟性を持つことです。本冊子からもその辺りの呼吸を読み取ることができましょう。お気に入りのロールモデルの一つでも見付ける手助けになれば幸いです。

## 目次

面白いことは、みんなで知ればより面白い	須山 知香	03
将来の健康のために今の生活習慣と向き合う	和田 恵子	04
思い立ったが吉日	吉成 祐子	05
ずっと好きな動物のことを研究する楽しさ	山口 未花子	06
過去を語っても過去に引きずられない	玉置 真理子	07
自己研鑽を怠らなければ道は開ける	柴田 綾	08
Where there's a will, there's a way.	勝野 那嘉子	09
明日のことまで思い悩むな	加納 亜紀	10
継続は力なり	伊野 陽子	11
大変でも続けることが大切	宗宮 仁美	12
明日ありと思う心の仇桜 夜半に嵐の吹かぬものかわ一親鸞	三輪 聖子	13
周囲への感謝を忘れずに、自分らしい形での自己実現を	佐々木 恵理	14
今を生きる	伊佐 保香	15
職場の理解と周囲のサポートの重要性	上原 沙織	16
夢見て行い、考えて祈る	安藤 弘樹	17
周りが理解し、フォローするのが 当たり前の社会にすることが本当の支援	平山 祐	18
インタビュー・記事作成を終えて 制作に協力して下さった学生さんたちの紹介		19
あとがき		21



面白いことは、  
みんなで見ればより面白い



Chika Suyama

## 須山 知香

岐阜大学 教育学部 理科教育講座(生物) 准教授

### 〈研究分野〉

植物系統分類学、理科教育、博物館

### 〈学生に勧めたい1冊〉

まっとうな日本語を体得したいのであれば、玉石混淆で沢山文章を読みましょう。ラノベだって、本でなくてOK。

### 〈休日の過ごし方・リフレッシュ法〉

休日だからといって、特別なことはしません。いつも通りに、仕事と、家事と、趣味のこと。

### 〈略歴〉

1993年3月 富山大学 理学部生物科 卒業

1993年4月~2000年3月

豊橋市自然史博物館 学芸員(現生植物分野担当)

2000年 金沢大学大学院 自然科学研究科

生命科学専攻 博士後期課程 入学

2001年5月~2002年1月

The Herbarium, The Royal Botanic Gardens, Kew

(イギリス王立キュー植物園植物標本庫)長期滞在研究者

2005年3月 金沢大学大学院 自然科学研究科 生命科学専攻

博士後期課程修了

2005年4月 金沢大学大学院 自然科学研究科

植物自然史研究室 研究生

2007年4月~2010年3月

金沢大学大学院 自然科学研究科 研究協力員

2010年4月~2012年3月

金沢大学大学院 自然科学研究科 博士研究員

2012年4月 岐阜大学 教育学部

理科教育講座(生物) 准教授



### 〈私のお気に入り〉

美味しい食べ物と飲み物は、人生を楽しく健康に生きる源  
四谷某所の、美味しい日本酒処  
(飲み放題!)



ミカワマツムシソウの花

### 草花の研究

花を咲かせる植物を主に研究しています。似ているけれど、種類により少しずつ異なる草花について、「どの程度違っていて」、「どんなバリエーションがあって」、「どこにどんなものがあるのか」、「互いにどういう関係があるのか」に興味を持って調べています。

豊橋市山中でのマツムシソウ科の新種発見をきっかけに、博論では東アジア地域に生息するマツムシソウ科の分類の再検討を行いました。こうした新種の発見は植物研究の醍醐味ですが、他者と知識を分かち合っていく過程に更に面白みを感じます。学部卒業、学芸員をしていたのは、この性質に学芸員という職業があっていたからだと思います。教育学部の教員となったのも、「面白いことは、みんなで見ればより面白い」と感じていたからで、それを教える技や伝える事も研究してきた結果です。

### 好きなことを追及していたら研究者になっていました

小さい頃から、野山でいるんな生き物や草花を探して、みんなで遊ぶのがひたすら楽しかった。今でもそうです。大学進学を決める際には、

親から「お前、そんな極楽とんぼみたいに野山をほっつき歩いて、どうやって食べていくつもりだ!」と言われて激しくやりあい、その段階で「将来問題」を乗り越えてしまいました。幸いにも高校に「生物部」という素敵なものがあったおかげで、大手を振って好きなことをして、そのまま大学を選び、仕事を選んで、今日に至っています。

### 研究者を目指す後輩へのアドバイス

遅くとも大学進学までには、自分が何をしたいのか、どうやって生きていきたいのかを自分なりに決めておきましょう(まだなら、今から必死に考えましょう)。その後の人生が楽になりますよ。ただ、決められないまま既に大学生や、それ以上になってしまっても道が閉ざされたわけじゃありません。大学を4年で卒業一修士を2年で修了一就職という枠にはまる必要はありません。一度就職した後で大学に戻ることもできます。最終的には自分で好きに選んで決めた道なら、何があってもどうにかりますので。

インタビュー・記事 岐阜大学男女共同参画推進室スタッフ

将来の健康のために  
今の生活習慣と向き合う



Keiko Wada

## 和田 恵子

岐阜大学大学院 医学系研究科 医科学専攻 腫瘍制御学講座  
疫学・予防医学分野 准教授

### 〈研究分野〉

疫学、予防医学

### 〈休日の過ごし方・リフレッシュ法〉

たまった家事と子どもの相手

### 〈略歴〉

1999年 名古屋大学医学部卒業

2007年 名古屋大学大学院医学系研究科修了

2008年 岐阜大学大学院医学研究科 疫学・予防医学 助教

2013年 岐阜大学大学院医学研究科 疫学・予防医学 准教授



〈私のお気に入り〉  
ドラゴンズの応援グッズ



最近publishした論文

### 生活環境が健康にどのような影響を与えるか

人生のある決定的な時期の環境要因が、将来の疾患の発症リスクに関与するとの仮説の下、様々なlife stageにおける生活習慣や環境曝露と癌、肥満、内因性ホルモンとの関連について調べています。実験的条件下ではなく、日常的な環境での生活習慣が人の健康にどのような影響を及ぼすかに興味があるため、ヒトを対象とします。人間は自由意志で生きているので、疫学調査の計画・実施・データの収集には様々な困難や限界があります。患者ではなく一般の人を対象にすれば、その困難はさらに複雑化します。しかしこのような研究から得られる知見は、疾病予防の観点から公衆衛生的に大きな影響を与えるとともに、病因のメカニズム解明を目指す実験的な基礎研究を後押しします。

### 病気を治すより、病気を防ぎたい

卒後、臨床医として患者と関わることで責任感とやりがいの大きさを感じていました。しかし、家庭内、学校や職場の環境が原因で発症

したり、入院中軽快していた病気が退院すると悪化したりするのを見て、その原因を探り、病気が起こらないようにしたいと考えました。健康維持と発症予防に関するエビデンスの構築が、多くの人々の生命と幸せの維持に寄与すると信じています。

### 研究者を目指す後輩へのメッセージ

人生の分岐点で何かを決断する時には、自分が社会でどうありたいのかを追求してください。自分のやりたいことに信念を持ち続けることが、同性異性を含めた周囲の人々の理解と支援を引き出します。また、古典的な男女の役割分担に基づいたまま、家事育児と仕事の両立をすることは男女ともに不可能です。これからの時代の新しい概念を構築して欲しいと思います。そのためにも、女性は子育てを盾にした甘えを捨てること、男性は家庭や育児にもっと参画することが重要だと思います。

インタビュー・記事 加藤 萌





Yuko Yoshinari

## 吉成 祐子

岐阜大学 留学生センター 准教授

## 〈研究分野〉

語用論、認知言語学、第二言語習得

## 〈学生に勧めたい一冊〉

職業にスポットをあてた物語が好きなのですが、『羊と鋼の森』（宮下奈都 著）は装丁も含め、手元に置きたくなる一冊です。ある青年がピアノ調律師として成長していくお話ですが、主人公だけでなく登場人物が皆、葛藤や挫折はあるものの、目標に向かってできる限りの努力を当然のようにしている姿が清々しく、また人とのつながりは影響を与え合うものであることを改めて感じることができました。

## 〈休日の過ごし方・リフレッシュ法〉

家族や友達とおいしいものを食べたり、飲んだりして、楽しい時間を過ごします。夫が料理担当のホームパーティーは友達にも評判が良く、私もリラックスできるので一番のリフレッシュ法になっています。

## 〈あこがれの研究者・尊敬する人〉

研究者ではないのですが、母方の祖父は旧大阪外国語大学のフランス語科を卒業し、高校で英語を教えていました。退職後も近所の子どもたちに勉強を教え、晩年は聖書の翻訳に取り組んでいました。絵を書くのも上手で、私が子どもの頃、サンタクロースの絵と英語のメッセージが書かれたお手製のクリスマスカードを送ってくれたこともあります。凛とした立ち振る舞いと、常に学ぶことを忘れない姿勢、そして自分の持てる能力をさらっと使うことができる祖父のような人になれたらと思います。

## 〈略歴〉

1992年 立命館大学 国際関係学部 卒業  
2003年 姫路獨協大学大学院 修士課程  
言語教育研究科言語教育専攻(日本語領域) 修士(言語教育)  
2008年 神戸大学大学院 後期博士課程  
文化科学研究科社会文化専攻 博士(学術)  
2008年 岐阜大学 留学生センター 准教授



## 〈私のお気に入り〉

ヨーロッパの町並み：どの国に行っても、ひたすら町を散策。特にヨーロッパの町は歩いていけるような気持ちになります。写真はエストニアの首都タリンの旧市街です。



日本語の授業風景

Mikako Yamaguchi

## 山口 未花子

岐阜大学 地域科学部 地域文化学科 地域構造講座 助教

## 〈研究分野〉

文化人類学、生態人類学、北米先住民研究

## 〈座右の銘〉

Part of the Animal  
カスカの古老の言葉：人は動物の一部である、動物に生かされている。

## 〈学生に勧めたい一冊〉

「カナダ・インディアンの世界から」煎本孝著 福音館書店  
こんな世界があるなら、自分もぜひ見たいと、この本を読んで思ったことが、動物生態学から文化人類学に転専攻するきっかけのひとつになりました。

## 〈休日の過ごし方・リフレッシュ法〉

子どもがまだ1歳なので、時間があればとにかく一緒に遊びます。

## 〈あこがれの研究者・尊敬する人〉

誰よりも尊敬しているのは、カスカの古老フレディ氏です。動物のことサバイバル技術など、どんな研究者よりも優れた知識と技術を持ち、それをおしみて伝えてくれました。

## 〈略歴〉

1995年 私立自由の森学園高等学校 卒業  
2002年 奈良教育大学教育学部総合文化科学課程  
環境科学コース自然誌専修 卒業  
2004年 北海道大学大学院文学研究科  
歴史地域文化学専攻修士課程修了  
2008年 北海道大学大学院文学研究科  
歴史地域文化学専攻博士後期課程修了  
2010年11月～2013年3月  
東北大学東北アジア研究センター 教育研究支援者  
2013年4月～2014年3月  
北九州市立大学地域共生教育センター 特任講師  
2014年4月 岐阜大学地域科学部助教(現在に至る)



## 〈私のお気に入り〉

自分でユーコンの動物の絵を描き、それをもとにして彫金師の友人に作ってもらいました。この指輪をしていると、いつも動物がそばにいてくれるような気持ちになります。

カスカの古老とヘラジカ猟へ出かけるため、船で川を移動するところ。森の中で古老と過ごした日々は何物にも代えがたい時間でした。



## ボランティアから日本語教育、そして言語学の世界へ

先生の専門は言語学であり、言語学はあらゆる言語を様々な観点から研究する学問で手法も様々だそうです。大学卒業後、東京で就職、結婚を機に退職し、その後旦那さんの転勤で神戸に戻り、そこで外国人に日本語を教えるボランティアをしたのをきっかけに日本語教育、そして言語学という学術の世界に飛び込んだそうです。

いったん社会に出た後で、再度学び直すことに不安はなかったのか質問をしたところ、周囲の理解・協力もあり、何より自分が興味があったことなので余り不安はなかったそうです。また、認知言語学分野の共同研究についてのお話の中で、先生は日本語とイタリア語を担当していますが、何故イタリア語なのかを尋ねると、学生時代の旅行でイタリアが一番良かったという経験と、義理のお父様の影響だそうです。

研究をしていて辛いことは、論文を書く際に日本語で言いたいことを思いついても、それを英語にするのが難しいことだそうです。ドラえもん「ほんやくコンニャク」があればいいのにとユーモアも交えて回答してくださいました。研究の面白いところは新しい発見や議論をかわすこ

とという、研究者の気質を表す回答でした。

インタビューは自分にとっても興味深く、有意義な時間でした。先生はストレートに研究職についていたのではなく、一旦社会に出てからのスタートをきっています。なかなか出来ないことだと思いますが、先生にとっては様々な経験をつんだ上で自分の責任で選択できたことにプラスの効果があったそうです。

## 研究者・研究職を目指す後輩へのメッセージ

先生から、趣味や興味のような些細なきっかけでも、やりたいと思うなら突き詰めて熱心に取り組むこと、また苦手なことも克服していつしかそれが専門分野になるかもしれないこと、さらに学生が今日から始められることとして、現代では必須の英語を積極的に学んでみるなどアドバイスをもらいました。私自身も苦手な英語をもう一度勉強してみたいという思いを抱きました。

インタビュー・記事 前田 結衣

## 狩猟から「ヒトと動物の関係」を探る

「ヒトと動物との関係」について、「狩猟」から明らかにする研究をしています。特に北米の先住民カスカの研究に力をいれています。カスカは、カナダのユーコン準州で、人間と動物との最初の関わり方である狩猟文化を維持している人たちです。古老と一緒に森に入って狩猟を行うなど、彼らと共に生活しています。私に子どもが産まれてからは家族も一緒に調査地へ行って、子育てのアドバイスをもらったこともあります。自分のプライベートと研究をリンクさせることで、研究にも深みが出てきていると思います。

また、日本でも研究を行っています。岐阜県揖斐川町に開設した「狩猟採集文化研究所」では、狩猟や、食肉加工処理施設で肉の加工、学生の実習などを行っています。どれだけ動物が怖いのか、足跡を見つけるのが難しいか、などは言葉では説明しきれないので、実際にやってみないと分かりません。狩猟のことを本当に理解するには、自分がやってみることが大事だと思っています。

## ずっと動物が好き

生まれてからずっと動物が好きという気持ちを持ち続けています。中学校の生物の授業で、学問として動物を知ることが面白いことに気が付きました。はじめは生物学を研究しようとしていましたが、様々な動物のこゝろを知るため、また人と動物との関わりを知るために文化人類学を専攻するようになりました。「動物が好き、動物について知りたい」という気持ちを持ち続けていたら、それが学問となり、研究者という仕事にシフトしていったのだと思います。

## 研究者・研究職を目指す後輩へ

私の研究もはじめは手探りで、様々な挫折や危険とも隣り合わせでしたが、学問に対する強い気持ちがあれば、次の一手、別のう回路が見えてくるものです。それを信じて頑張ってください。

インタビュー・記事 田口 うらら





過去を語っても  
過去に引きずられない

Mariko Tamaoki

## 玉置 真理子

岐阜大学 医学部 看護学科 地域・精神看護学講座  
地域看護学分野 助教

〈研究分野〉  
喫煙防止教育、地域における保健活動

〈学生に勧めたい/学生時代に感動した一冊〉  
「わたしを束ねないで」 新川和江  
高校の頃に読んで感動した詩集で、今改めて読んで心が揺さぶられます。

〈休日の過ごし方・リフレッシュ法〉  
時には、夫、私どちらかが2人の子どもをみて自分の時間を  
持てるようにしています。寝るのもよし、美味しいものを食  
べたり、ショッピングに1人出かけてもよし、そんな風に気  
分転換しています。



〈私のお気に入り〉  
母の友人が、いろんなことで迷ったとき  
に書いてくれた言葉です。  
「困ったことは起きない 必ず良くなる  
嫌なことは思い出さない」  
これを眺む(見る)と、心がすっとしたり、  
泣けてきたり、その時々で気持ちの整理  
ができます。

〈略歴〉  
1998年 日本福祉大学社会福祉学部 卒業  
1999年 岐阜県立衛生専門学校 卒業  
1999～2004年  
多治見市役所 保健センター  
2008年 聖隷クリストファー大学大学院 卒業  
2004年～現在  
現職

### 看護師から保健師へ、そして研究者に

保健師活動に興味を持ったのは看護学生の時でしたが、1年間の看護  
師としての経験を通し、保健師になりたいという希望がさらに募りまし  
た。看護師として接した患者さんが、一度退院して希望通り自宅に戻っ  
ても、褥瘡などが悪化して再入院するケースがあり、病気の予防や病後の  
機能障害悪化予防という保健師の仕事の重要性を感じました。保健師の  
活動は、年齢や障害の有無を問わず、できるだけ健康に生活を送れるよ  
う、生活の場に向いて個々人にあった方法を一緒に考え、健康教育など  
を通して病気の予防をすること、すなわち、病気にならない支援と、  
障害があっても生活の質を改善することです。「幸福」を「健康」という切  
り口から考えていく方法に魅力を感じました。

その後、保健師として就業2年目から、市民の健康づくり計画の担当  
となり、岐大の先生方と一緒に仕事をやる機会に恵まれました。先生方  
が、既存の知識は本当に正しいのか、市民たちに科学的根拠のある情報  
を提供できているか、またその科学的根拠も時代によって変化してい  
くことに注意を払う必要性を示してくださいました。この経験を通して、保

健活動をじっくり研究し、知識を深め、発展させたいと思いました。

### 研究(仕事)とプライベートの両立について

子育てしながらの仕事は周囲に負担をかけます。夫とも一緒に考え、  
家事育児を一層協力し合い、周囲の温かい配慮に感謝しつつ頑張りた  
いと思っています。今は毎日があっという間に過ぎていきます。子ども  
の時間が短縮された分、関わり方が丁寧になったと感じ、日々葛藤と楽  
しさを両方味わっています。また、生活の多面的・継続的な部分を当事  
者として実感することが、人々の健康と生活を主題とする私の研究にも  
役立っていると感じています。

### 研究者・研究職を目指す後輩へのメッセージ

研究者の仕事は、先が見えなくてつらいこともあります。一方で、  
知識を深め、発展させていく喜びもあります。また、看護師や保健師で  
あった経験、妻として母としての視点が活かせる仕事です。

インタビュー・記事 岐阜大学男女共同参画推進室スタッフ

自己研鑽を怠らなければ  
道は開ける

Aya Shibata

## 柴田 綾

岐阜大学 工学部 化学・生命工学科 助教

〈研究分野〉  
核酸化学

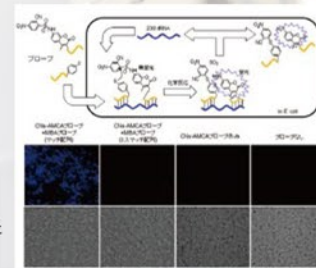
〈座右の銘〉  
人間万事塞翁が馬

〈休日の過ごし方・リフレッシュ法〉  
愛犬たちと遊ぶこと

〈略歴〉  
2002年3月 岐阜大学工学部生命工学科 卒業  
2004年3月 岐阜大学大学院工学研究科博士前期課程修了  
2007年3月 岐阜大学大学院工学研究科博士後期課程修了  
2007年4月～2010年3月  
独立行政法人理化学研究所 協力研究員  
2010年4月～2013年2月  
独立行政法人理化学研究所 基礎科学特別研究員  
2013年3月 岐阜大学工学部化学・生命工学科生命化学コース  
特任助教(任期付研究専念型)  
2017年4月 岐阜大学工学部化学・  
生命工学科生命化学コース 助教



〈私のお気に入り〉  
うちの愛犬たちです。



化学反応プローブを用いた  
大腸菌内のRNA検出

### 楽しいことを続けていたら研究者になっていた

研究者になろうと思った特別なきっかけはありません。ものづくりが楽  
しく、博士課程に進学し、その後理研……と、気づいたら研究者になっ  
ていました。

研究は楽しいです。小さいことでうまくいけば嬉しいですし、失敗し  
ても別の方法を探せばいいやと思って楽しくやっています。失敗続きだと  
へこむこともありますが、「そのうちうまくいく」と思って、寝たら忘れてし  
まいます。悩んでもいいことはありませんから、切り替えは大事です。  
目の前にあることを日々こなして、ふわふわと漂って、今日、ここまで来た  
ようなものですが、意外と道は開けるものです。

### やらずに後悔するより、やって後悔する

ポストについては、研究者向けの就職サイトやコンサルタント会社を  
利用したり、お世話になっている先生に相談したり、他には、就職支援  
をしているようなところもあります。周りの助けを得ながら探してい

ば、不安に思う必要はないかと思います。

結婚や出産についても、近年大学に保育所が併設されるなどハンデ  
を減らしていこうとする動きが大きくなりつつあります。ポストをしな  
がら気づいたら3人の子持ち、なんて友人もいますから、ハンデになると  
いうことは無いように思います。

先のことを不安に思っても仕方がありません。研究とは関係のない、  
一般企業での仕事に就く方もいますが、そこで楽しめることを見つけれ  
たらそれでいいのではと思います。

不安はあるかもしれませんが、意外と何とかなるものだと私は思っ  
ています。やらずに後悔するよりは、やって後悔したいから、迷うくらいなら  
進んじやえばと思います。

### 後輩へのメッセージ

今は仕事と家庭が両立できるようなくみが整いつつありますし、女  
性限定のポストや研究費などもあります。進めば何とかなるものです。

インタビュー・記事 久保 実稀



Where there's a will,  
there's a way.



Nakako Katsuno

## 勝野 那嘉子

岐阜大学 応用生物科学部 応用生命科学課程 助教

〈研究分野〉  
食品加工学、食品化学

〈休日の過ごし方・リフレッシュ法〉  
休日は、主に家事をしています。最近は、娘と一緒に菓子作りを楽しんでいます。

〈座右の銘〉  
Where there's a will, there's a way.  
博士課程に在籍していた頃ラジオから流れてきた言葉。研究がしたいと思っても様々な問題が立ちふさがっていましたが、諦めずにいれば自分の道が開けるかもしれないと感じました。

〈あこがれの研究者・尊敬する人〉  
福田 靖子先生 ゴマ加工する企業で研究を行っていた頃、研究だけでなく、子育てをしながら研究を続ける苦労など今後の参考になることをいろいろ教えていただきました。また、ゴマへの情熱がすごく、大学をご退職後も活発に活動されており、研究には情熱が重要だと教えられました。

〈略歴〉  
2001年 岐阜大学農学部 卒業  
2001年 食品メーカーに就職(品質管理、研究開発)  
2004年~2007年  
岐阜大学大学院連合農学研究科博士課程  
2007年 博士(農学)取得  
2014年 食品メーカーを退職後、岐阜大学応用生物科学部 助教に着任



〈私のお気に入り〉  
趣味で、ときどき編みぐるみや羊毛フェルトのマスコットを作っています。



Winter Schoolで留学中の学生さんを食品の工場見学に連れて行った時

### 研究内容

食品メーカー在職中は、ゴマ加工品に関して基礎から工場が生じる課題の解決まで幅広く行っていました。食品中には多数の成分が混在し、その加工においては様々な現象が生じ、とても複雑です。その現象一つ一つの解析を積み重ねることで、より良い食品の開発、品質改良、課題の解決に繋げることを目指しました。大学では、食品の加工中の香りの変化、炊飯米の外観変化、米粉パンの研究など様々な研究を同時並行しています。そのほとんどが実際の食品工業に应用されることを見据えた研究です。現場で何が起きているのか、また、大学の研究をどう商品化に繋げていくか、企業での品質管理の経験があるからこそわかることもあり、今の研究にも役立っていると感じます。

### 食品メーカー勤務を経て食品加工の研究者に

小さい頃から、科学系の研究者になりたいと思っていました。そのため大学院進学を目指しましたが、家庭の事情などにより諦めざるを得ませんでした。大学卒業後に就職した食品メーカーで、幸運にも入社1年後に研究開発職に移ることができました。その後社会人ドクターとして大学院にも入学し、現在に至ります。

### 研究とプライベートとの両立

社会人ドクター時代は研究一色でした。企業に戻ってからは、プライベートも楽しむようになりました。現在、休日は家事と育児に追われていますが充実しています。研究以外の自分の時間を持つことで、健康・精神面ともに安定すると感じています。研究が行き詰った時に良いアイデアが出てくることもあるので、気分転換は重要です。周りの助けがあってこそ研究が続けられ、充実した生活を送れると思っています。

### 研究者を目指す後輩へのメッセージ

研究室で外国の方と接する機会が多いのですが、海外では先に結婚・出産を経験してから博士課程に進学する方も多くいます。何歳でも挑戦はできるはず。やりたいことを諦めないことが次に繋がるのではないのでしょうか。選択をしなければいけない時が必ずあると思いますが、自分の意志が強ければ、達成する方法が見出せると思います。

インタビュー・記事 安藤 春菜

Aki Kano

## 加納 亜紀

岐阜大学 保健管理センター 助教、産業医

〈研究分野〉  
産業保健、循環器

〈座右の銘〉  
「明日のことまで思い悩むな。」(聖書より): ミッション系の学校に通う娘から教わったものです。

〈感動した作品〉  
映画「ロレンツォのオイル」です。治療法がない難病の我が子のために、医療者でもないごく普通の夫婦が、医学書・文献をひたすら読んで研究し、病気の進行を止める薬(脂肪酸)を見つける、という実話にもとづいた作品です。

〈休日の過ごし方・リフレッシュ法〉  
休日は、洗濯などのたまった家事をしてほぼ終わってしまいます。ごくたまにですが、友人とおいしいものを食べておしゃべりすることでストレス解消になっています。

〈あこがれの研究者・尊敬する人〉  
母校の創立者。吉岡彌生先生です。女性が自立して社会に貢献してゆけるよう、女子のみの医学校を設立されました。現在でも世界に唯一の、女子だけの医科大学です。

〈略歴〉  
1989年3月 東京女子医科大学医学部 卒業  
1989年6月 岐阜大学医学部第2内科(循環器内科)研修医  
1992年6月 岐阜大学医学部第2内科医員  
1995年7月 医学博士(岐阜大学)  
1997年3月 岐阜地方・家庭裁判所技官、健康管理医  
2010年4月 岐阜大学保健管理センター助教、産業医  
岐阜大学医学部附属病院第2内科 助教(併任)



〈私のお気に入り〉  
今年(2017年)の母の日。  
私のパワーの源である3人の娘と。



1989年3月卒業式、母校の創立者吉岡彌生先生の銅像を囲んで。今でも親交の深い友人たちです。

### 産業医という仕事

産業医とは、会社に勤める労働者の健康を守る仕事です。健康診断結果に問題があった人と面談したり、退職した方がスムーズに復帰できるよう働き方について医師の視点から指示したりする他、必要な場合に事業主に勧告するなど責任も大きい職種です。病院で患者を治療するのはまた違ったやりがいがあります。予防医学的見地からの指導・アドバイスを含め、十分時間をとって相手に関わることで、「この人の将来の健康を変えられる」と実感できます。ただし、医学の進歩は著しく、常に勉強が必要ですし、教育や研究活動も怠れません。

### 家庭と仕事の両立

産業医として働きだしたころ、夫が筋萎縮性側索硬化症(ALS)という難病になりました。指一本動かなくなる病気で治療法はありません。夫も寝たきりになり人工呼吸器をつけました。子育てのみでなく、夫の介護も必要となり、これからどうすればよいのかと思いました。しかし、ケアマネージャーの方と相談し、介護ヘル

明日のことまで思い悩むな



パーを軸に、訪問看護師、訪問入浴などの外部リソースを利用し、子育てや介護と両立しながら今日まで仕事を続けることができています。産業医は病院に勤める医師よりも時間の拘束が少なく、父母の協力や、職場の方々の理解にも支えられました。とても感謝しています。夫の病気は運動神経以外はほとんど障害されないので、意思疎通もでき、私を心配し助言してくれます。夫の存在は私にとって重要です。

### 後輩へのメッセージ

人生の中で壁にぶつかることがあると思います。自分を取り巻く周囲に何が起るかもしれません。それでも諦めず自分のやりたいことができる道を模索してほしいです。母校である東京女子医大の創立者、吉岡彌生先生は「女性の自立」を教育理念に掲げておられました。経済的自立だけでなく、自分の生き方を自分で決断するという事です。仕事を続けることは楽しいだけではありませんが、自分で決めた道を邁進してください。それが女性の自立であり男女共同参画の基本だと思います。

インタビュー・記事 久保 実稀





Yoko Ino

## 伊野 陽子

岐阜薬科大学 実践薬学大講座 薬局薬学研究室 講師

〈研究分野〉  
医療薬学

〈座右の銘〉  
継続は力なり

〈学生に勧めたい一冊〉  
「魔女の1ダース 米原万里」  
ロシア語通訳の方が書かれたエッセイで自分の常識=他の常識ではないことが面白く書かれています。

〈休日の過ごし方・リフレッシュ法〉  
公園に行くこと  
子どもを連れていきます。遊具で遊ぶ子供の成長をみたり、四季の変化を感じることができてリフレッシュします。

〈略歴〉  
1996年 岐阜薬科大学薬学部厚生薬学科 卒業  
2004年 フロリダ大学薬学部 Pharm.D. 課程修了  
2015年 岐阜薬科大学 実践薬学大講座 薬局薬学研究室 講師



〈私のお気に入り〉  
2016年3月卒業式 薬局薬学研究室学生・教員と

## アメリカでの経験を生かして・・・

大学卒業後、しばらく仕事をしたのち、大学在学中にアメリカに留学した経験があったことから、アメリカへ留学しました。シンシナティ大学交換留学を経てフロリダ大学薬学部に入局し、Pharm.D.の学位を取得しました。アメリカの大学では非常に実践的なスキルを教えていること、かつ薬物治療を適正化するための様々な知識・スキルを学んでいることに感銘を受けました。その後日本に帰国し、病院薬剤師として働いたのちに、今は岐阜薬科大学附属薬局で薬局薬剤師として働いています。患者さんへ提供する医療の質を上げるためには、薬剤師業務についてのデータを解析し発表していくことも重要であると考え、地域における薬剤師の役割に関して研究しています。高齢化が進む中、地域包括ケアを実践するために薬局はかかりつけとしての役割を果たす必要があります。薬剤師が提供するサービスの質を上げるためには、多職種との連携や自己研鑽などが重要となってきます。地域における多職種連携の実態や今後の課題についての研究、附属薬局が提供する研修会の効果など地域における薬剤師業務の質向上を目指し、研究を行っています。

## 研究と子育て

現在小学校2年生と年中の子どもがいます。子育てしながらの仕事は大変ではありますが、楽しいこともたくさんあります。子育てを終えた方からは「今は大変だけれどあとという間に手が離れてしまうから今を楽しんだほうがいいよ」という言葉をよくいただくので、楽しいところにも目を向けながら、周りの力を借りつつ、無理せず続けていきたいと思っています。

## 研究者・研究職を目指す後輩へのメッセージ

時間がたくさんある学生のうちに様々な経験を積むとよいと思います。たとえば、大学在学中にした勉強が今でも役立つことも多くあります。また、勉強以外にも様々な体験がその後の人生の糧となると思います。人生は一度きりですし、短い時間でも旅行に行くなど、やってみていたことがあったらどんどんチャレンジしてほしいなと思います。

インタビュー・記事 森口 真結

Hitomi Somiya

## 宗宮 仁美

岐阜薬科大学 生体機能解析学大講座 分子生物学研究室 助教

〈研究分野〉  
神経科学

〈学生に勧めたい一冊〉  
「道はひらける」デール・カーネギー  
ネガティブ思考になりがちな私が夫から勧められ購入した本です。どのように困難を克服したかなどの体験談とともに前向きに生きる大切さが書かれています。

〈休日の過ごし方・リフレッシュ法〉  
休日は、たまに家事をするとともに、平日はあまり一緒にいられないので子どもと一緒にいるようにしています。

〈あこがれの研究者・尊敬する人〉  
リータ・レーヴィ=モンタルチーニ

〈略歴〉  
2003年 岐阜薬科大学 製造薬学科 卒業  
2003年 岐阜薬科大学大学院 薬学研究科 博士前期過程 入学  
2005年 岐阜薬科大学大学院 薬学研究科 博士前期過程 修了  
2005年 岐阜県庁 入庁  
2006年 岐阜県庁 退職  
2006年 岐阜薬科大学大学院 薬学研究科 博士後期過程 入学  
2009年 岐阜薬科大学大学院 薬学研究科 博士後期過程 単位取得退学  
2009年 岐阜薬科大学 分子生物学研究室 助教  
現在に至る



〈私のお気に入り〉  
英語を習得するため、英語多読をしています。中でもこのシリーズが面白いです。

## どうせ後悔するならチャレンジして後悔しよう

学生時代、日々実験に没頭していましたが、なかなか結果が出ませんでした。そのような中、修士論文発表の直前にたまたま結果が出て、その喜びが忘れられないまま公務員として就職しました。どうせ後悔するならチャレンジして後悔しようと思わずに仕事をやめ、研究者の道を志しました。現在は、神経発達障がいを行っています。神経発達障がいの中核症状である社会性障がいは、認知の偏りが大きくなることに基づくと考えられています。私たちは、動物の社会性を作り出す要素である情動制御機構及び感覚認知機構とその記憶に関わる分子や神経基盤を明らかにしようとしています。

## 研究と子育ての両立

2017年の7月に第1子を出産しました。出産前までは休日も実験し、研究が私の生活のほとんどを占めていました。研究室の事情や、研究を進めたいと思う気持ちがあり、育児休業をとらず産後休暇の終了と

ともに仕事に復帰し、現在は部分休業をとり少し早く帰宅しています。生後57日目から保育園に預けていることで、子どもを犠牲にしているのではないかと、子どもの成長を間近で見たいと思う一方、研究をあきらめたくない葛藤する日々を送っています。以前は自分で何でもやりたいと思っていたのですが、いまはそうはいかず、研究室の皆さん、保育園の先生方、家族に助けてもらいながら過ごしています。キャリアを積んでこられた先生からも「大変でも続けることが大切だ」というアドバイスをいただき、まだ手探り状態ですがペースを落としても仕事も家庭も両方を大切にしていきたいと思っています。

## 研究者を目指す後輩へのメッセージ

研究はうまくいかないことのほうが多く、つらいこともあります。誰も知らないことを明らかにすることができるやりがいのある仕事です。自分が明らかにしたいことを見つけること、一人では研究できないので、人との関わりを大切にすべきだと思います。

インタビュー・記事 森口 真結





夜半に嵐の吹かぬものかわ  
—親鸞

明日ありと思う心の仇桜



Satoko Miwa

## 三輪 聖子

岐阜女子大学 家政学部 生活科学科 教授

## 〈研究分野〉

家庭科教育、家族・女性の生き方について

## 〈学生に勧めたい一冊〉

レイチェル・カーソン著

『沈黙の春』、『センス・オブ・ワンダー』

どちらも自然の大切さを伝え、環境問題、環境教育に関わる重要な書物だと思います。

## 〈休日の過ごし方・リフレッシュ法〉

掃除をして自分の食べたいものを作り、のんびり過ごす。

うさぎのモコじいをなでなです。

## 〈略歴〉

1981年3月 岐阜女子大学家政学部家政学科家政学専攻 卒業

1984年3月 愛知教育大学大学院教育学 研究科修了

1984年4月 瀬戸市立祖東中学校勤務

1985年4月 岐阜女子大学 助手

2004年4月 岐阜女子大学 教授



〈私のお気に入り〉  
モコじい  
(もふもふの癒し系)

Eri Sasaki

## 佐々木 恵理

岐阜女子大学 文化創造学部 講師

## 〈研究分野〉

臨床心理学、健康心理学、教育心理学

## 〈学生に勧めたい一冊〉

『もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの「マネジメント」を読んだら』 岩崎 夏海 著

人生の中で一番、様々なことにチャレンジしたり、がむしゃらに何か力を注いだりできる時期は、大学生の時ではないでしょうか。話は、高校生活ですが、集団で一つのことを成し遂げることの難しさや大切さを教えてくれる本です。

## 〈座右の銘〉

感謝

## 〈休日の過ごし方・リフレッシュ法〉

平日の運動不足を解消するために、親子スイミングに通っています。体を動かすことで、心身ともにリフレッシュすることができて良い息抜きです。

## 〈あこがれの研究者・尊敬する人〉

岐阜女子大学の先生方

## 〈略歴〉

2007年 筑波大学第二学群人間学類 卒業

2009年 仁愛大学大学院人間学研究科修了 修士(心理学)

2016年 筑波大学大学院人間総合科学研究科(3年制博士課程) 単位取得退学

2011年~2013年

茨城県スクールカウンセラー

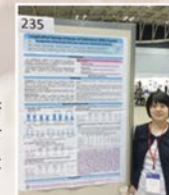
2013年 岐阜女子大学文化創造学部 助教

2015年 岐阜女子大学文化創造学部 講師



## 〈私のお気に入り〉

講義「相談援助」の授業で学生へ指導や助言：授業時は積極的に学生とコミュニケーションをとっています。取り上げられる内容をより身近に感じたり、学生が意欲を持って取り組み、理解しやすい講義となるように努めています。



2016年8月国際心理学会ポスター発表：  
岐阜大学との連携型共同研究の助成をうけ、共同研究の成果を発表しました。共同研究の代表者として他大学の先生方からの助言をうけることができ、貴重な経験をすることができました。

周囲への感謝を忘れずに、  
自分らしい形で自己実現を



## 現代の結婚観・家族観を研究

「成人未婚子の結婚観から家庭科教育における家族を考える」が現在の研究テーマです。時代とともに家族の在り方は変化していますが、家族はなくなるものだと考えています。2016年におこなった結婚に関する調査では結婚していない若者が結婚したいと思っているにもかかわらず、行動へ結びついていないという実態が明らかとなりました。「家族」がどのような形や、つながりにおいて存在するのかを捉えるとともに、家庭科教育の家族・家庭の内容において中学生に伝える必要があることを探り、自己実現に結び付く教育の在り方を考えています。

## 研究者を目指したきっかけ

中学校で家庭科教員として勤めていた時に、母校の大学から誘いを受けたことがきっかけです。迷いもありましたが、全学年の家庭科を受け持ちながら他の雑務に追われる日々、自分の中でもやり切ったという気持ちがあり、研究者の道を進むことを選びました。

## 研究とプライベートの両立について

2人の子育てと研究の両立は大変でした。育児休業制度がない時代だったので、産前は休むことなく、産後も8週で仕事に復帰しました。子どもが大きくなるにつれ落ち着くかと思いきや、学校役員や様々な事柄が起こり、大変な内容は変わっていきますが、苦労は尽きませんでした。調査研究で家を空けることもあり、特に夫の親には大変お世話になったと思います。それでも仕事を続けたかったので、研究をやめようとは思いませんでした。

## 研究者・研究職を目指す後輩へのメッセージ

「研究は長年の積み重ねが評価される」という恩師の言葉が印象に残っています。近年は短期間に成果を求められることも多いですが、経年調査をしなければ明らかにならないこともあり、愚直にコツコツと積み重ねることも大切だと思います。時代はどんどん変化していきますから、今調べておかないと後で調べることが困難になることもあります。研究は自分の知りたいと思うことへの追及です。

インタビュー・記事 後藤 ゆりか

普段の忙しさを学生に感じさせない佐々木恵理先生に、仕事と家庭の両立について語っていただきました。対話形式でご紹介します。

## 一出産前後で仕事や研究に対する意識が変わりましたか？

佐々木：以前は、仕事の中でいろいろ課題があったときに、とにかく時間をかけて取り組むということができました。子どもが産まれてからは、やはり時間に制限があります。子どもが寝てからでも仕事はできないのですが、子どもが風邪をひいたり、急な対応も入ってくるので、限られた時間でいかにパフォーマンスを達成していくかを、意識しながら取り組んでいるところです。

## 一仕事や育児以外の自由な時間がなかなかとれないのではないですか？

佐々木：そういう時間がすごく少なくなってきたかなと思います。まだ子どもが小さいということもあって自分のために使える時間が少なくなってしまうとストレスがたまりやすそうですね。でも、逆に働くことで自分が好きなように動けるといえるか、仕事に向かって専念できる時間、研究のことを考え

る時間が、自分が思ったことをやれる時間になっています。

## 一家庭内の家事分担について「できることを、できる人が、できる時にやる」という流れができたということですが、どういうことでしょうか？

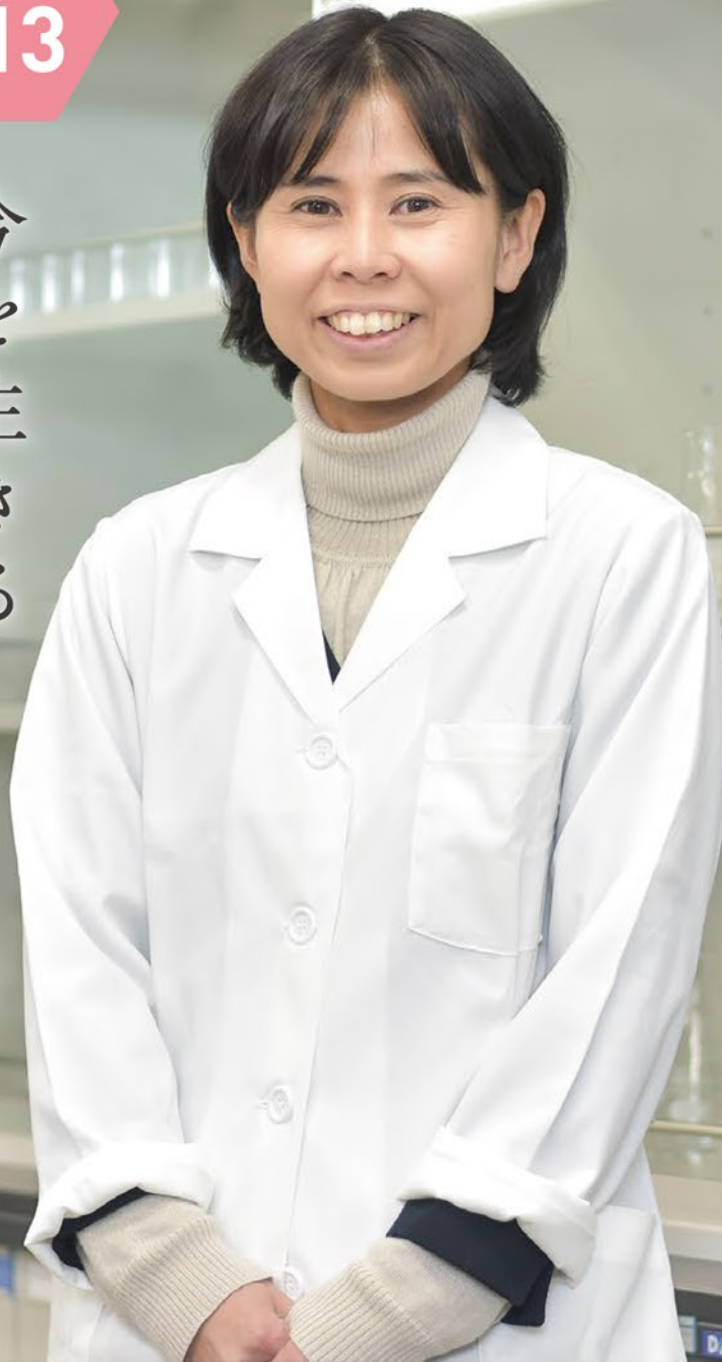
佐々木：家事については、主人と協力しないと回っていかないということがあって、ご飯は私が作るのですが、洗濯とか、子どもの送り迎えなど色々分担をしながらやっています。

## 研究者・研究職を目指す後輩へのメッセージ

これからは、女性・男性に関わらず、仕事と家庭の両方の充実が求められる時代になってくると思います。研究は、自分のやってみたいことや突き進んで明らかにしたいことを形にできるともやりがいのある仕事です。人生の選択において、何かを選んだからといって、何かを諦めるという極端な考えではなく、それぞれにあった自分らしい形で自分の夢を実現してほしいなと思います。

インタビュー・記事 葛口 菜穂





Yasuka Isa

## 伊佐 保香

岐阜女子大学 家政学部 健康栄養学科 講師

〈研究分野〉  
栄養学、ビタミン、食品機能

〈座右の銘〉  
今を生きる

〈休日の過ごし方・リフレッシュ法〉  
休日は、子どもとの時間の穴埋めです。絵本集めが趣味なので、子どもと一緒に絵本を楽しんでいます。

〈略歴〉  
2006年 岐阜大学大学院連合農学研究所 卒業  
2007年 岐阜大学大学院医学系研究所 研究員  
2009年 岐阜女子大学家政学部健康栄養学科 助教



〈私のお気に入り〉  
毎年研究室の学生が卒業するときに残してくれる色紙。学生たちにもいつも支えられていることに感謝し、これからは頑張ろう!という奮起の材料となっています。

Saori Uehara

## 上原 沙織

アビ株式会社 長良川リサーチセンター 主任

〈研究分野〉  
食品の機能性評価

〈座右の銘〉  
人間万事塞翁が馬

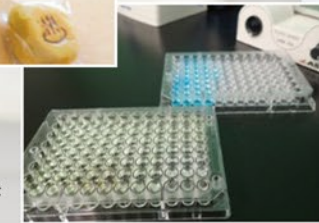
〈休日の過ごし方・リフレッシュ法〉  
休日は子どもと遊んでいます。あとは平日にはできない料理やお菓子を作ったりしています。

〈略歴〉  
2000年 静岡大学理学部化学科 卒業  
2002年 奈良先端科学技術大学院大学  
バイオサイエンス研究科博士前期課程 卒業  
2006年 横浜市立大学大学院 総合理学研究科博士後期課程  
単位修得退学  
2006年1月～12月  
東京工業大学バイオ研究基盤総合支援センター 研究支援員  
2007年 横浜市立大学大学院 博士(理学)取得  
2007年1月～7月  
大阪大学蛋白質研究所 特任研究員  
2007年8月～2009年8月  
大阪大学蛋白質研究所 特任助教  
2013年4月～2016年3月  
信州大学農学部 博士研究員  
2016年6月～  
現職



〈私のお気に入り〉  
お茶等を飲みながら  
のんびりするのが好きです

さまざまな素材の活性を  
測定しています

ビタミンB<sub>6</sub>の損失抑制について研究

現在は「冷凍技術の向上とビタミンB<sub>6</sub>の損失抑制の検討」を行っています。基本的に食品は、凍結融解によって細胞が破壊されると栄養素が食品の外に流れ出てしまいます。例えば、食品の解凍によって水分が出てきた事はないですか?実はその水分(ドリップ)に栄養素が流れ出ているのです。そこで、冷凍技術を向上することによりビタミンB<sub>6</sub>の損失も抑制できないか研究を行っています。働く女性が増えている今、手軽に食材の調理ができ、食品を高品質の状態でも保存しておくことは重要な課題であると考えています。そこで、食品をおいしくかつ栄養素の損失も少ない状態で、手間をかけずに手に取ることができるように研究を進めています。

## 研究者を目指したきっかけ

小学生の頃から調べることが好きで「何かを突き詰める」ということをしたいと思っていました。夏休みの宿題ではダンゴムシやカタツムリなど、〇〇の観察をしていたように記憶しています。もともと食品に興味

はありましたが、大学の講義をきっかけに食品などに含まれる成分が体におよぼす作用などを調べたいと思いました。さらに、卒業研究で初めて「研究」というものに携わり、ますます研究の虜になりました。

## 研究を続けてきた理由・モチベーション

とにかく研究が好きだからです。現在は子どもが小さいので、長い時間を要することはなかなかできませんし、思うように進まないことも多々あります。ですが、どんな状況であってもやめようとは思いません。時間を見つけては気になることを調べたり、勉強をしたりすることは、「研究が好き」な私にとって、モチベーションのひとつとなっています。

## 研究者・研究職を目指す後輩へのメッセージ

どんな状況であっても少しずつ前に進むことが大切です。その一歩が大きくても小さくても、継続することが大切だと思います。その先いずれ道が拓けると私は信じています。

インタビュー・記事 後藤 ゆりか

## 健康食品の機能性評価

長良川リサーチセンターでは、健康食品の原料開発、機能性や安全性の評価、成分分析を行っており、その中で、主に機能性に関する研究を担当しています。実際に食品の活性を評価すると様々な機能があります。健康増進機能にどの成分が関与し、その作用機序はどうなっているのかを掘り下げて研究しています。以前はゲノムについて研究していました。研究テーマは変わりましたが、基礎的な研究という根幹は変わっていません。今は食品の作用を細胞レベルで評価しています。また、製品開発のための比較試験も行っています。2015年から施行された機能性表示食品制度により食品の機能性のエビデンスが重視されている事、さらに、研究したものが商品として世に出ていく可能性にやりがいを感じます。

## 研究とプライベートの両立

子どもが生まれてからは、研究室で長時間過ごすことができなくなり、研究(仕事)とプライベート(家庭)の時間に明確な区切りをつけるよう

になりました。研究から完全に離れ、気分転換を図ることで仕事にも良い影響が出るので、プライベートの充実も心がけています。

今は実家の親に助けられてもらえるので特に問題はありませんが、以前は実家が遠く、子どもが小さかった為大変でした。子どものことで急な対応が必要な際は、職場の理解に助けられました。研究とプライベートの両立にあたっては、周りのサポートが不可欠です。小さい子どもを長時間保育園に預けて仕事を続けることに悩んだ時期もありましたが、働き続けている友人の存在が大きな支えとなりました。

## 研究者・研究職を目指す後輩へのメッセージ

ライフイベントにより、研究職を続けるか悩むことがあると思います。私は、友達に励まされ、また周囲の理解や支援によって今に繋げることができました。おそらく、多くの人は不安や悩みを抱えながらも、継続することで今の研究環境を手に入れています。研究が好きであれば、不安や悩みはつきものだと割り切って続けてみてほしいと思います。

インタビュー・記事 安藤 春菜





Hiroki Ando

## 安藤 弘樹

岐阜大学 医学系研究科 病原体制御学分野 助教

〈研究分野〉  
合成生物学、細菌学

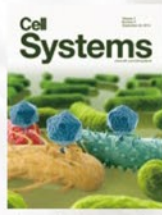
〈家族構成〉  
妻(日本学術振興会特別研究員RPD・同じラボで研究しています)、長女6歳、長男2歳

〈学生に勧めたい1冊〉  
A Life Decoded (Craig Venter)  
Life at the Speed of Light (Craig Venter)  
合成生物学の先駆者であり実業家でもあるCraig Venterの自伝と学術書。研究者としての生き方がとにかくカッコいい。

〈休日の過ごし方・リフレッシュ法〉  
研究のアイデアを練る、読書(小説・漫画)、投資



〈私のお気に入り〉  
アメリカでの最後の  
パッケージでの1枚  
@アンテロープキャニオン



論文が掲載された雑誌

〈略歴〉  
2007年3月 大阪大学大学院医学系研究科  
博士課程修了 博士(医学)  
2007年4月~2010年6月 国立国際医療研究センター研究所  
感染症制御研究部 博士研究員  
2010年7月~2012年6月 同上 上級研究員  
2012年7月~2014年6月 マサチューセッツ工科大学合成生物学  
グループ 日本学術振興会海外特別研究員  
2014年7月~2015年6月 同上 博士研究員  
2015年7月~2017年3月 同上 上級研究員  
2017年4月~ 現職

## 子育てしやすい研究環境を作る

以前と比べて女性研究者の数が増えていますが、支援はまだまだ足りないと思います。妊娠・出産・育児によってキャリアを中断せざるをえなかった女性がスムーズに復帰できるような支援が必要です。また、パートナーの助けも重要ですが、男性が育休を取りにくかったり、そもそも育休を取ることを考えない男性が多いと思います。育休に関する啓蒙活動も必要ではないでしょうか。私は2012年から5年間アメリカで研究をしていましたが、日本と比べて働き方が自由で、子どもがいることが障害にならない環境がありました。日本でもまずは環境づくりをすることが大切だと思います。

## 優秀な研究者が活躍できる環境を作る

個々の研究者が実力や個性を評価されるような社会を実現するために、年齢、性別、国籍、研究歴、学位、現在の職位によらない、実力(論文)による評価を徹底するべきだと思います。実力を評価された研究

者にはrisk takerとなれるよう相応のポジションと研究費を与え逆に論文が書けない、研究ができない研究者は任期付きにして給与も相応の額にすることで、新陳代謝も促進されます。日本では若手研究者に対するポジションが少なく、特に学位取得後や海外留学後の就職活動では苦労します。キャリアを中断した優秀な研究者が活躍できる環境を作ることで科学技術の発展に貢献できると思います。

## 研究者を目指す後輩へのアドバイス

研究者に限らず、また女性に限らず、自分がやりたいことに向かって突き進むことは想像以上に難しいものです。それによって「得るもの」と「失うもの」が必ずあります。両者を天秤にかけて、それでも研究者を目指すと思うなら周りの目や否定的な意見は無視して、自分を信じて突き進んでください。優秀な研究者が増えて切磋琢磨できれば素晴らしいと思います。

インタビュー・記事 加藤 萌

Tasuku Hirayama

## 平山 祐

岐阜薬科大学 創薬化学大講座 薬化学研究室 准教授

〈研究分野〉  
ケミカルバイオロジー、有機化学、生物無機化学

〈家族構成〉  
妻(会社員)、子ども二人(4歳女、2歳男)

〈学生に勧めたい1冊〉  
テール・カーネギー「人を動かす」:人との付き合い方、集団をまとめるとき等に必要な心構えについての本です。最近流行りのノウハウ本のようなものではありません。

〈休日の過ごし方・リフレッシュ法〉  
体を動かす(野球、ゴルフ、ランニング)

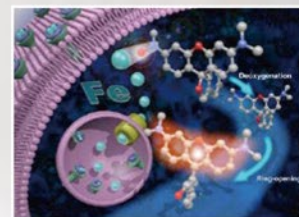
〈あこがれの研究者・尊敬する人〉  
Emil Fischer、落合博満

〈略歴〉  
2004年3月 京都大学総合人間学部 卒業  
2006年3月 京都大学大学院人間・環境学研究所修士課程修了  
2009年3月 京都大学大学院人間・環境学研究所博士課程修了  
(山本行男 教授)  
2009年4月~2010年9月  
University of California, Berkeley,  
C.J.Chang研究室 博士研究員

[上記の間]  
2008年4月~2010年3年  
日本学術振興会特別研究員  
(DC2→PD(学位取得に伴う資格変更))

2010年4月~2010年9月  
日本学術振興会特別研究員(PD)  
2010年10月~2016年3月  
岐阜薬科大学薬化学研究室 助教

2016年4月~現在  
岐阜薬科大学薬化学研究室 准教授



〈私のお気に入り〉  
投稿論文の内容がその雑誌の表紙になったものです。自分で作ったものが掲載されたので記念です。

## 同僚や同じ研究分野の女性研究者について

妊娠・出産以前は男女に研究の差はないと考えています。むしろ女性研究者の方がプレゼンやコミュニケーションの能力、協調性が高く、研究者に求められる能力を備えていると感じます。また、(研究室主催者(PI)の方の方針にもよりますが)大学の研究者は柔軟な勤務形態なので子育てをしながらでも比較的時間の融通が効く環境だと思います。自分も、教授の先生の理解もあり、子どもの送迎などで早く帰る等、時間を柔軟に使う事ができています。

## 最近の女性研究者の支援について

女性を積極的に採用する方針がありますが、能力を過大評価することや女性であることが加算対象となれば本人の負担となることもあるでしょう。評価は本人の実力で判断されるべきだと思います。登用を増やすことより、仕事の負担の補助等、子育てが仕事に影響しないように周りが理解し、フォローするのが当たり前という社会にすることが本当の支援だと思います。

研究者が実力を発揮して、科学技術の発展に  
貢献できる社会を実現するために

現在研究者・教員が行っている仕事で、各種委員会・事務作業などの仕事を軽減する人員配置をするとうれしいと思います。研究のスピードの問題は、修士号を持ち、現状専業主婦(主夫)をされている方や、研究とは無関係のパートタイム職に就かれている方が、その専門性を活かして研究補助員として働くことができる制度ができれば解決できると考えています。

## 研究者・研究職を目指す後輩へのメッセージ

研究は自分の思ったようにできるけれど、自由であるがゆえに厳しい世界です。上手くいかないことも多いのでそれに対する耐性や切り替える力が必要です。ですが、誰も思いつかないこと、世界を変えるかもしれないことだと考えながら行う研究は楽しいです。

インタビュー・記事 松下 明香里



インタビュー・記事作成を終えて

— 制作に協力して下さった学生さんたちの紹介 —



Haruna Ando  
**安藤 春菜**

岐阜大学  
応用生物科学部  
3年

将来、自分が研究者になることはあまり考えていなかったし、諦めてもいたのですが、先生方の生き方を見せていただくことで、答えはひとつではないと知りました。今後、就職活動をしていく上でも「努力してから諦める」ようにしようと思えました。



Moe Kato  
**加藤 萌**

岐阜大学  
医学部  
6年

この度は、ロールモデル集のインタビューをさせていただきありがとうございました。  
男女双方の先生方から、女性も支援が当然だと思うのではなく、信念を持って臨むこと、まず男性が協力できる環境を作ること、という意見を伺うことができ、とても参考になりました。  
今後も、男女共同参画について自分なりに考えていきます。



Miki Kubo  
**久保 実稀**

岐阜大学  
応用生物科学部  
2年

初めての経験で、不慣れな部分も多く大変でしたが、このような機会をいただけてとても幸せでした。ロールモデルの方々がどんなふうに分の進む道を選択してきたのかを伺ううちに、自分の将来についての不安とも向き合うことが出来ました。  
インタビューを通してお世話になったすべての方に、この場を借りて感謝します。



Urara Taguchi  
**田口 うらら**

岐阜大学  
地域科学部  
3年

大学教員に研究についてじっくりお話を伺う機会はありませんので、とても貴重なお時間でした。  
担当した山口先生が、学生時代から一人でカスカに飛び込んでいかれたことに研究への強い熱意を感じました。好き、楽しいと感じることに出会い、その気持ちを大事に持ち続けているのはとても素敵なことだと思いました。



Yui Maeda  
**前田 結衣**

岐阜大学  
教育学部  
1年

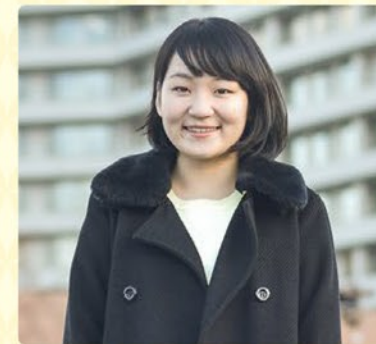
普段女性の研究者や先生と交流する機会がないので、今回のインタビューは新たなものの見方や考え方を学ぶきっかけとなりました。とくに吉成先生は、私自身も興味を抱いている言語の分野を専門としているので、どのような着眼点で研究を進めていくかという話が聞いて面白かったです。



Akari Matsushita  
**松下 明香里**

岐阜薬科大学  
薬科学科  
3年

岐阜大の平山先生の記事を担当しました。男性から見て、研究者の世界で男女差は少なく、理解も進んでいるとわかりました。先生は、ご夫婦で育児・家事を分担し、理想的にワークライフバランスを保たれています。女性が家事を担うべきだという考え方はなくなり、これからの働く女性の未来は明るいと感じました。



Mayu Moriguchi  
**森口 真結**

岐阜薬科大学  
薬学研究科  
修士1年

女性が働いていく上で、出産や子育て等と仕事を両立する大変さを痛感しました。その中で、先生方は、研究、子育てをうまく両立されていました。今後、就職し、様々なライフイベントを迎える私たちにとって、先生方はまさにモデルであり、モチベーションとなる存在だと感じました。今回は誠にありがとうございました。



Naho Kuzuguchi  
**葛口 菜穂**

岐阜女子大学  
文化創造学研究科  
修士1年

インタビューをして、今まで学校でみてきた佐々木先生とは違った佐々木先生を垣間見ることができました。仕事と家庭の両立というのは、なかなか難しく思い通りにいかないことばかりだと思います。しかし、私も将来、佐々木先生のような仕事も家庭も大切にできる素敵な女性になりたいとインタビューを終え強く思いました。



Yurika Goto  
**後藤 ゆりか**

岐阜女子大学  
家政学部  
4年

インタビュー当日は緊張していましたが、先生の温かく優しい雰囲気の中で、とても分かりやすく興味深い内容に夢中となり、あっという間に時間は過ぎていきました。お話の中で自分の未来を前向きに想像するきっかけもいただきました。このような貴重な経験をすることができ、とても嬉しく思います。ありがとうございました。



## あとがき

『女性研究者ロールモデル集 ― 輝く先輩からのメッセージ 2018年版』を最後までご覧いただきありがとうございました。いかがでしたか？ あなた自身の10年後、20年後を思い描ききっかけにしてみてくださいでしょうか？

このロールモデル集の掲載に応じてくださった研究者・研究職16名(女性14名、男性2名)の方々は、いずれもご自身の研究に情熱を持って臨み、また、家庭生活も大切にしていらっしゃる方々で、今まさに育児奮闘中、あるいは家族の介護をしながらお仕事を続けている方もいらっしゃいます。研究の道に入られた契機もさまざまであり、思わぬきっかけから研究職についた方もいらっしゃれば、若い時から明確に研究者を目指した方もいらっしゃいます。研究者への道筋は1つではないということです。読者の皆さんがいずれかのロールモデルに共感したり、勇気を得たり、または自分とは異なる考え方からも学んでいただけることと思います。

また、今回のロールモデル集では、男性研究者の方からも貴重なお話を伺うことができました。おふたりの話からは、研究そのものに男女の性差が影響することはないことが察せられます。女性のライフイベントが研究継続の足枷となっているとしても、支援制度を整え、男女ともに固定的な性別役割分担意識をなくしていくことによって、研究活動における性差の区別は、意味を持たなくなる日がくると感じていただけただけではないでしょうか。

また、このロールモデル集のために研究者にインタビューをおこない、原稿をまとめてくださったのは各機関の学生さんたちです。そのため、記事のスタイルは一律ではありません。研究者の視点からまとめてくださった学生さんが多かった一方で、学生さん自身の視点で原稿をまとめてくださった方や、Q&Aの対話形式でまとめてくださった方もいらっしゃいました。読者の方々は少し戸惑われたかもしれませんが、そこに、「将来どんな仕事に就くのか、どんな人生が待ち受けているのか」と常に不安と期待を抱えている現役の学生さんたちの生の声を読み取っていただければ幸いです。

最後になりましたが、お忙しい仕事の合間を縫ってインタビューに応じてくださった研究者の方々、授業や実験の空き時間に先生方のインタビューに奔走してくれた学生の皆さんに、心よりお礼申し上げます。

ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(連携型)事業  
実施責任者 林 正子  
岐阜大学 副学長(多様性人材活力推進担当)・男女共同参画推進室長

文部科学省科学技術人材育成費補助事業  
ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(連携型)  
「清流の国 輝くギフジョ 支援プロジェクト」

女性研究者ロールモデル集 ― 輝く先輩からのメッセージ 2018年版

2018(平成30)年2月発行

発行 国立大学法人 岐阜大学  
岐阜薬科大学  
学校法人 華陽学園 岐阜女子大学  
アビ株式会社

編集責任者 林正子  
岐阜大学 副学長(多様性人材活力推進担当)  
男女共同参画推進室長